

機関番号：11301
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007 ～ 2010
 課題番号：19330209
 研究課題名（和文） 自己意識の特性をふまえた軽度発達障害児への生涯発達の視点からの心理教育的支援
 研究課題名（英文） psycho-educational support in life span for the children with developmental disorders in terms of self-cognition
 研究代表者
 田中 真理（TANAKA MARI）
 東北大学・大学院教育学研究科・准教授
 研究者番号：70274412

研究成果の概要（和文）：

学校での支援については特別支援教育コーディネーターの「調整」の内実やナチュラルサポーターの育成と支援について検討した。親支援については、発達障害児の母親の育児肯定感や夫の育児に関する実態と認識が明確となった。発達障害児の自己意識の発達については、研究動向の把握と、原因帰属、自己評価と自尊心との関連等から特性を検討した。心理臨床的支援については、心理劇的ロールプレイの有効性に関して縦断的検討を行った。

研究成果の概要（英文）：

The contents of coordination for constructing a school support system by special needs education coordinators are discussed.

The relation mothers' recognition of much their husbands participated in raising their children with developmental disabilities, and mothers' feelings about childrearing are discussed.

To investigate the self-cognition of people with AD/HD and PDD, the research trends with a focus on the causal attribution are discussed.

The changing process of the self-understanding of a subject with Asperger's disorder is examined. We held psycho-dramatic role-playing sessions for three years in a group consisting of adolescents with PDD.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：発達障害学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：発達障害、自己意識、生涯発達、心理教育的支援

1. 研究開始当初の背景

学習障害、注意欠陥/多動性障害（以下 ADHD）、高機能自閉症、アスペルガー障害等の軽度発達障害のある子ども（以下、対象児）を対象とした特別支援教育における具体的な支援策の構築・実現、教育的・社会的な急務課題となっており様々な取り組みがなされてきたが、そこには次のような問題点がある。①ある年齢段階のある発達障害へのある特性に対する一面的な支援に留まり、生涯発達の視点に立脚した障害児にとって「真」に役立つ有機的支援になっていない、②支援する側からの視点が前面に出た対策であり、対象児の視点に立脚した支援策ではない、③対象児の視点に立脚した支援策を考えると、何をそのキー概念（手がかりの核）にするか明確でない。そこで、本研究では、支援される側の生活世界や精神世界に注目し、対象児の視点に立脚した生涯発達の視点からの教育支援の在り方を検討していく。

2. 研究の目的

目的①軽度発達障害児をとりまく社会的環境について実態調査する

目的②軽度発達障害児の自己意識のありかたを検討する

目的③軽度発達障害児に対する心理臨床的援助、教育支援についてその方法の有効性や変容のプロセスを解明する

3. 研究の方法

目的①：学校支援については小学校における特別支援教育コーディネーターの「調整」に関して、1事例を対象に1年間にわたる縦断研究を行った。また、共生社会を生きる人材を育成するかという観点からナチュラルサポーターの育成と支援について検討した。親支援については、発達障害児の母親を対象とした質問紙調査を行った。「自分のための時間」に関して半構造化面接調査を行った。青年期発達障害者の親支援について事例研究を行った。

目的②：発達障害児の自己意識の発達について、データベースをもとに文献検索を行った。自己意識の発達について、発達障害児を対象に調査研究を行った。自己認識に関する発達の検討をすすめるため、小・中学生の定型発

達児を対象に横断的調査を行った。

目的③：心理劇的ロールプレイを用いた軽度発達障害児のグループワークにおける他者への志向性の過程および子どもの対人関係の困難さを主訴として来談した親に対する集団心理面接過程に関する縦断的な事例検討を行った。

4. 研究成果

・小学校における特別支援教育コーディネーターの「調整」の内実を明確にした。共生社会を生きる人材をいかに育成するかという観点からナチュラルサポーターの育成と支援について提言を行った。親支援については、発達障害児の母親を対象に、育児肯定感と、父親の育児に対する母親の認識との関連性、および「自分のための時間」に関する実態と親の認識が明確となった。

・発達障害児の自己意識の発達について、研究動向の把握と今後の課題が明確となった。自己意識の発達について、課題遂行に対する原因帰属、自己評価と自尊心との関連、ポジティブ・イллюジョン、他者に映る自己評価、自己概念という観点からの特性が明確となった。また、小・中学生の定型発達における自己認識に関する発達の様相を示すことができた。

・心理劇的ロールプレイを用いた軽度発達障害児のグループワークにおける他者への志向性の過程および子どもの対人関係の困難さを主訴として来談した親に対する集団心理面接過程に関する縦断的なプロセスが明確となった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計33件）

1. 田中真理 注意欠陥/多動性障害児・者における原因帰属に関する研究動向，東北大学大学院教育学研究科年報，査読無，2011年（印刷中）

2. 滝吉美知香・田中真理 広汎性発達障害者を対象とした集団療法に関する先行研究

の動向と課題, 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 査読無, 2010年, 58(2)巻, 189-212 ページ.

3. 田中真理 青年期発達障害者の親支援, 心理学ワールド, 日本心理学会, 査読有, 2010年, 49巻, 9-12 ページ.

4. 田中真理 集団遊戯療法におけるロール・プレイング 臨床心理学, 金剛出版, 査読有, 2010年, 10-3巻 371-375 ページ.

5. 滝吉美知香・田中真理 ある青年期アスペルガー障害者における自己理解の変容—自己理解質問および心理劇的ロールプレインをとおして— 特殊教育学研究, 査読有, 2009年, 46(5)巻, 279-290 ページ.

6. 滝吉美知香・田中真理 あるアスペルガー障害者における自己理解の変容過程—心理劇的ロールプレイングをとおして— 心理臨床学研究, 査読有, 2009年, 27(2)巻, 195-207 ページ.

7. TANAKA Mari 2008 Process of Group Sessions using Psychodramatic Role Playing for Adolescents with High-functioning Pervasive Developmental Disorder: : Deepening Understanding of Self and Others. Annual Report; Graduate School of Education, Tohoku University, 57-1, pp.289-310. 査読無.

8. 田中真理 自閉症児の“場のよみ”にはいかなるメタ認知が働いているか 現代のエスプリ (依頼論文), 査読有, 2008年, 497巻, 142-151 ページ.

9. 中山奈央・田中真理 注意欠陥/多動性障害児の自己評価と自尊感情に関する調査研究 特殊教育学研究, 査読有, 2008年, 46(2)巻, 103-113 ページ.

10. 廣澤満之・小牧綾乃・滝吉美知香・李・田中真理・渡邊徹, 小学校における特別支援教育コーディネーターの外的「調整」に関する

研究, 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 査読無, 2008年, 57-1巻, 359-380 ページ.

11. Tanaka M. & TAKIYOSHI M. 2007 Self-Cognition Development during Childhood and Puberty in Korea Graduate School of Education Tohoku University, 55-2, pp.165-183. 査読無.

12. 小島未生・田中真理 障害児の父親の育児行為に対する母親の認識と育児感情に関する調査研究 特殊教育学研究, 査読有, 2007年, 44-5巻, 291-299 ページ.

[学会発表] (計 24件)

1. 佐藤健太郎・田中真理 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級と校外の機関との連携に関する研究, 第48回日本特殊教育学会, 2010年9月18日, 長崎大学

2. 田中真理 集団遊戯面接における高機能自閉性障害児の自己理解の変容過程, 第29回日本心理臨床学会, 2010年9月4日, 東北大学

3. 田中真理・小牧綾乃・滝吉美知香・廣澤満之・李 小学校における特別支援教育コーディネーターの「調整」に関する研究(6)—校内支援体制とコーディネーターの内的調整—, 第17回日本LD学会, 2008年11月22日, 広島大学

4. M.Takiyoshi, M.Tanaka, K. Tatehana, A.Sugiyama Self-Cognition Development during Childhood and Puberty in Japan. American Psychological Association, Boston 2008年8月14日

5. 田中真理・滝吉美知香・小牧綾乃 小学校における特別支援教育コーディネーターの「調整」に関する研究(1)—「抑制の力」と「柔軟性のある意思表示」に関する内的調整—, 第16回日本LD学会, 2007年11月23日, 横浜

〔図書〕（計6件）

1. 田中真理・別府哲・小島道生編 心理臨床現場での支援の実際 「高機能自閉症の理解と支援」 有斐閣, 2010年, 237-261 ページ.

2. 田中真理・中山奈央 ADHD 児の自己の発達と支援, 田中道治他編 (分担執筆者9名), 「発達障害のある子どもの自己を育てる」, ナカニシヤ出版, 2007年, 55-67 ページ.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.sed.tohoku.ac.jp/lab/clipsy/tanaka/sub5.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 真理 (TANAKA MARI)
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号: 70274412

(2) 研究分担者

渡邊 徹 (WATANABE TORU)
宮城教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 80113885

高原 朗子 (TAKAHARA AKIKO)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号: 20264989

横山 浩之 (YOKOYAMA HIROYUKI)
山形大学・医学部看護学科・准教授
研究者番号: 40271952

(3) 連携研究者

なし